

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立厳木小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・施設一体型小中併設校として、「知・徳・体の調和のとれた学校」「楽しさ、元気、創造性に満ちた学校」「地域に信頼される学校」を目指し、教育活動に取り組んできた。今後も小中連携を図り、社会で活用できる学力と生活力を9年間身に付けさせるよう、学習内容や児童の発達段階に応じた魅力ある授業を展開し、学習意欲を高めていきたい。 ・学校教育目標の達成のため、地域、家庭と連携を図りながら、教育活動を行ってきた。特に、地域の方々には、様々な場面で学校教育に関わっていただき、体験から学びを充実させることができた。今後も児童の課題意識に応じた体験学習や郷土の課題解決のための取組を行い、地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。 ・開校の1年目であったため、様々な取組を行ったが、時間外勤務時間の縮減はなかなか実現しなかったが、職員の働き方改革についての意識は、高まってきている。今後も、職員が心身共に健康に働くことができるように、組織力を生かした改善策を探っていく。
2 学校教育目標	夢にむかって 学び続けようとする 子どもの育成 ～地域とともに 未来を拓く 厳木小中学校～
3 本年度の重点 目標	<p>(1) 小中連携・学力向上……小中併設校として、9か年の学習内容や児童・生徒の発達段階に応じた魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。</p> <p>(2) 個に応じた教育の充実……児童・生徒一人一人の長所や強みに着目して、多様なニーズを有する子どもたちに対応した学びを実現する。</p> <p>(3) 認め合い、思いやりをもって行動する子どもの育成……みんなが協力し、自己共のよさを認め合う場面を設定し、自分と他人の権利を尊重できる態度を育てる。</p>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価 意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○唐津の学びスタイルチェックシートに示した学びの実現状況が2.8以上の教師80%以上	・毎学期末に唐津の学びスタイルチェックシートを記入し、指導法を振り返る。課題については重点項目として全職員で共通理解し、改善を図る。	B	・各学級でスキルタイムに継続して取り組んでおり、基礎・基本の定着へと繋がっている。 ・タブレットを使ったCBTデジタルドリル問題を取り入れることで学習に苦手意識がある児童も抵抗なく取り組むことができ、基礎・基本の定着に繋がっている。 ・12月調査「学校は、授業の工夫や朝のスキルタイムの活用を通して、基礎基本の定着を図っていると思いますか」に肯定的回答をする保護者は100%であった。	B	・課題について児童が理解できるように継続して、グループ討議、クラスでの話し合いを充実させる必要がある。 ・肯定的な85%の児童には質を高める対応、届かなかった15%には個別の対応(特性の理解等)が必要かもしれない。
	○主体的・対話的で深い学びの展開 ○主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫と家庭学習習慣の確立	○話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできている児童85%以上 ○児童アンケートで「家庭での学習時間(10分×学年+20分)を集中して取り組めた」と答える児童の割合80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、全教科半分以上の時間で、話し合う活動と振り返り活動を行う。振り返り活動で出た児童の感想を次時の学習活動に生かす手立てを取る。 ・児童自身が学びをメタ認知できるような振り返りの場を設定し、唐津の学びのスタイルに沿った授業展開ができるようにする。 ・家庭学習の習慣が身につくように、「家庭学習の手引き」を作成したり、「家庭学習ががんばろう週間」を実施したりする。	・12月実施「グループやクラスで話し合うことで、自分の考えを広げたり、深めたりしていますか」に肯定的な児童は88%で、前回より3%増加した。各教員が意識して話し合い活動を授業の中に仕組んでいった成果が表出したと考えられる。 ・単元を通して振り返りの記入をしたことで、児童が毎時間の学びを確認しながら学習に臨むことができた。 ・目標の家庭学習時間を達成している児童は65%と前回よりも低下した。よい取組の自学ノートを掲示したが、児童の家庭学習の取組への意識向上にはあまり直結しなかったようだ。3学期には、家庭学習ががんばろう週間の周知徹底し、保護者との連携を図ることで、児童の家庭学習への意識を高めた。	B	・12月調査「グループやクラスで話し合うことで、自分の考えを広げたり、深めたりしていますか」に肯定的な児童は88%で、前回より3%増加した。各教員が意識して話し合い活動を授業の中に仕組んでいった成果が表出したと考えられる。 ・単元を通して振り返りの記入をしたことで、児童が毎時間の学びを確認しながら学習に臨むことができた。 ・目標の家庭学習時間を達成している児童は65%と前回よりも低下した。よい取組の自学ノートを掲示したが、児童の家庭学習の取組への意識向上にはあまり直結しなかったようだ。3学期には、家庭学習ががんばろう週間の周知徹底し、保護者との連携を図ることで、児童の家庭学習への意識を高めた。	・学習の振り返りは大切なことだと思う。それが家庭学習の定着につながるのではないかと感じる。 ・家庭学習を継続するためには適正な量の宿題を課す必要があるのではないかと感じる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事やなかよし班の活動に積極的に参加し、異学年との交流を楽しめる児童80%以上 ○道徳や人権教育に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・月1回のおひさまタイムの実施 ・地域の方と連携した体験活動の実施 ・人権・同和教育に関する校内研修等の実施 ・部落差別を解消するための学習計画の積極的実践(学級担任と人・同担者のTT授業など) ・実行委員会や委員会、クラブ、集会などの場において、それぞれの個性や立場を認め合える活動を仕組む。	A	・12月のアンケート結果から、異学年との交流を楽しんだり、協力したりしているかに対しての肯定的な回答が、児童95%、保護者100%の回答が得られ、80%の数値目標を超えることができた。児童間交流だけでなく、児童と生徒の交流も日常生活の中のいたるところで行われている姿から、よりよい人間関係づくりにつながっていると考えられる。 ・12月の保護者対象アンケートの結果から、おひさま朝会や道徳科等で児童の豊かな心づくりに対して肯定的な回答が98%であった。児童対象アンケートの結果から思いやりのある優しい言葉を進んで使っていると答えた児童は、93%の回答を得て、設定した数値目標を達成することができた。 ・部落差別を解消するための学習実践を積極的に取り組み、4年と6年ではTT授業も行うことができた。来年度は、さらに児童実態をふまえて取り組みやすい学習年間計画を立てていきたい。	A	・12月の人権集会に参加し、集会の司会・進行を児童が主体的に取り組む姿に感動した。また、小中学校で取り組んだ「いいところ見つけ」の活動も素晴らしいと思う。今後も、もっと多くの児童の発表を聴きたいと思った。 ・おひさまタイムを有意義に活用して、生きていく上で人として大切な事柄を伝えてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○道徳授業や人権集会、特別活動等を効果的に活用し、いじめを生まない風土や集団づくりに取り組む。 ○生活問題協議会、アンケートによるいじめの早期発見・早期対応に取り組む。【保護者アンケート90%】	・なかよしアンケート(毎月第1水曜日)を実施し、実施後の丁寧な聞き取りと指導を行い、結果を全職員で共通理解する。支援が必要な児童については全職員で対応する。 ・生徒指導協議会で、気になる児童について全職員で共通理解し、対応を考える。 ・QJアンケートを実施し、その結果を生かした指導を行う。	・気になる児童の言動が見られた時は、担任等気付いた職員が管理職や級外職員に報告・相談することで複数体制で早期対応し、指導や保護者連絡、継続観察を実施している。また、毎月の小中生徒指導協議会や小学校部会において児童の問題行動の実態とその対応について共通理解・共通指導を意識することができた。 ・12月調査「Q-Uアンケートやなかよしアンケート等を効果的に活用し、児童理解に努め、いじめの早期発見、早期対応に組織的に取り組んでいます」に肯定的回答をする教職員は100%であった。また、12月調査「思いやりのある優しい言葉を進んで使っているか」に肯定的回答をする児童は93%、「学校は、なかよしアンケート等を効果的に活用しながら、いじめの早期発見・早期対応に組織的に取り組んでいると思いますか」に肯定的回答をする保護者は99%であった。	A	・いじめに対し、深く取り組まれ共通理解されている。今後もさらに低学年からの早期発見と家庭を含めた対応が大切である。 ・児童の心や行動の変化をキャッチしていただき早期発見・早期対応に継続して努めていただきたい。	
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれたと思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上	・キャリア教育に取り組み、それぞれの未来への思いを学級で共有することでやりたい自分実現につなげる。 ・児童が主体的に取り組む児童会行事を行い、児童の主体性を育む。	A	・委員会活動を中心に児童のアイデアを生かし、挨拶運動やいいところ見つけ、一人ひとりのよさを発表する児童発案の児童会活動(わくわく集会)などの活動に取り組ませたことで児童の主体性が育まれ、自己肯定感が高まった。 ・学校行事や児童会活動を学級活動のキャリア教育と関連づけながら実施することで、自己を振り返り、その後の成長につなげることができた。 ・児童の活躍の場を増やすことで複数の職員が褒める機会も増え、児童の自己肯定感が高まったと思われる。12月アンケート「先生はあなたのよいところを認めてくれたと思う」について肯定的な回答をした児童は93%(7月調査より12%増加)で目標を達成できた。	A	・7月アンケート「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」81%の児童からの肯定的な反応は素晴らしいと思います。約20%の児童へ自己肯定感を感じられるようにアプローチャを続けていってほしい。ほめてもらえていないと感じている児童が心配になる。 ・夢や目標を児童なりに語れるように行事を通して体験を数多く設定してほしい。
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしていいる」に肯定的な回答をする児童80%以上	・「健康に良い食事」を意識するように呼び掛ける。また、毎週水曜日の「元気チェック」の食事の面を月末に振り返らせることで望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成に取り組む。	・12月の保護者アンケートから元気チェックでの生活習慣づくりへの肯定的回答は91%であった。しかし、児童アンケートの望ましい食習慣の項目「好き嫌いをせずに健康的に食事がとれているか」は前回より13%低く77%であった。冬の給食でも野菜等のおかずは残量が多い。幼少期からの食べず嫌いが給食でも続いていることが考えられる。今年度は栄養教諭が多忙な為、食育指導が出来ていない。今後は栄養教諭と連携した食育指導を計画している。	B	・12月の保護者アンケートから元気チェックでの生活習慣づくりへの肯定的回答は91%であった。しかし、児童アンケートの望ましい食習慣の項目「好き嫌いをせずに健康的に食事がとれているか」は前回より13%低く77%であった。冬の給食でも野菜等のおかずは残量が多い。幼少期からの食べず嫌いが給食でも続いていることが考えられる。今年度は栄養教諭が多忙な為、食育指導が出来ていない。今後は栄養教諭と連携した食育指導を計画している。	A
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○望ましい生活習慣の形成	○家庭で約束したスマートフォンのゲーム時間の遵守と「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いた児童80%以上	・毎週水曜日に実施する「元気チェック」で生活習慣を振り返らせ、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身につけさせる。	B	・12月児童対象アンケート「早寝・早起き・朝ごはん」の肯定的な回答は78%であり、前回より10%下がった。毎週水曜日に実施している「生活チェック」では高学年に就寝が遅い児童が見られた。家庭におけるゲーム時間の約束に関する項目では76%と前回より20%低くなった。また保護者アンケート「お子さんは家庭でのゲームの時間の約束を守っていますか」の回答が65%と低かった。今後は、使用時間とルールについて保護者への啓発とPTAとの連携が必要である。	B	・スマートフォン、携帯での情報拡散による影響等を知らせる等家庭との連携が大切だと思う。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・教材をデータベース化したり、校務事務の共有化したりすることで、事務作業の時間を軽減する。 ・ペーパーレス会議を多く設定することで、印刷作業時間の削減や個人情報管理に役立つ。 ・年度初めや職員研修時に管理職が積極的な年休取得や勤務の適正化がよりよい教育効果に繋がることがを伝え、タイムマネジメントの習慣化を図る。 ・小中学校合わせて水曜日の定時退勤日やバースデー年休取得を設定し、互いに声を掛け合う。	・12月実施アンケート「教材をデータベース化したり、校務事務を共有化したりすることで、事務作業時間の軽減を図っている」に肯定的回答の教職員は91%であり、7月調査より6%増えた。これは、教材のデータベース化や職員会議等各種会議のペーパーレス化が習慣となってきた結果と考える。行事計画データ共有化することで確認が容易にでき、校務を効率的に実施することができた。	A	・職員は、使用時間とルールについて保護者への啓発とPTAとの連携が必要である。	A
●特別支援教育の充実	○支援体制の確立と教員の専門性や意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85パーセント以上	・全職員を対象とした特別支援教育に関する研修会を年4回行う。 ・配慮を要する児童について随時ケース会議を行い、支援の在り方を協議する。 ・必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門機関と連携し、支援会議を行いよりよい支援に繋ぐ。	A	・気になる児童や配慮が必要な児童について学級担任と協力してケース会議や支援会議を行い、必要に応じて外部の関係機関とも連携してより良い支援方法を考え実践している。 ・児童の支援の方向性について保護者と合意形成を図り、共通理解のもとに支援を行うことができた。 ・生活支援員と管理職、特別支援CDIによる会議を設定し、適切な支援のあり方についての意見交換や事例研修を行った。今後も定期的に研修を行い、支援方法の改善、向上を目指したい。 ・12月アンケート「特別支援に関する研修の学びを生かして、特別支援教育に関する専門性の向上を図っています」に肯定的回答の教職員は100%であった。	A	・児童に寄り添って支援ができていると思う。 ・児童の成長による変化が表れてきても、適切な配慮の下で支援されていると思う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価 意見や提言	
◎志を高める教育 ○地域人材の活用と、地域での体験活動の推進	◎地域と連携を図りながら郷土を誇りに思う児童の健全育成 ◎地域での体験活動の推進する中でふるさとを愛する心と主体的・創造的に活動できる力育成	◎地域の人・もの・ことを活用した体験型学習 全学年年間3回以上 ◎地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答90%以上	・ふるさとの自然環境や伝統を学ぶ体験活動にゲストティーチャーを積極的に活用する。 ・体験活動の振り返りを充実させる手立てを工夫していく。地域の方々へ学習の成果を発表する機会を設け、学んだことについての考えや思いを伝える。	A	・後期では、事前打合せで児童の課題意識や授業の目的等を講師に詳しく伝えることで、学びを深め広げる体験活動となった。12月アンケート「地域のひと・もの・ことを活用した学習は好きですか」に肯定的回答の児童は92%であり、7月調査より4%増えた。12月実施アンケート「学校は、児童が地域のひと・もの・ことを活用した体験型学習の充実に取り組んでいると思いますか」に肯定的な保護者は99%であった。	A	・地域密着型で素晴らしいと思います。 ・児童は元気よく挨拶をしてくれます。地域の方との活動を通して体験活動を充実させることができると思います。
○開かれた学校づくり	○家庭や地域との連携	○学校だよりを月1回以上発行する。 ○学校ホームページを定期的に更新し、学校教育の情報を定期的に発行し、学校教育の情報を公開する。	・学級通信や学校だよりの発行を定期的に発行する。 ・学校ホームページを定期的に更新し、学校教育の情報を多方面に発信する。	A	・月1回以上の学校だよりでは教育活動の目的や児童の様子、毎週末の学級通信では、授業での児童の反応や感想文等を掲載することで保護者や地域の方に児童の頑張りを発信するよう努めた。12月実施アンケート「学校は、学校だよりや学級通信を定期的に発行し、教育家有働に関する情報発信に努めていると思いますか」に肯定的な保護者は98%であった。	A	・情報公開されていて、学校の様子が分かりやすい。学校だよりや学級通信など詳しく学校の様子が分かりやすい。厳木コミュニティセンターにも学校だよりが置かれていて手に取りやすい。市民の目にもとまりやすい。 ・紙の通信もあってが、HP(特に給食)の閲覧が少ないため、紙面にQRコードとかリンク先URL等をのせてもいいのではないかと感じる。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…員共通 ○…学校独自 ●…志と誇りを高める教育</p> <p>・小中連携・学力向上については、施設一体型併設校の強みを生かし、小中職員が校内研修で授業過程の統一や「話し合いの視点」「振り返りの視点」「目指す受容力・表現力系統表」を作成・活用等共通実践し、グループやクラスで話し合うことで自分の考えを広げたり深めたりする授業の充実を図ってきた。「家庭学習の手引き」を作成したが、目標とする家庭での学習時間を達成している児童は76%だったため、よい自学ノートを掲示したり中学校の期末テストにあわせて家庭学習ががんばろう週間を継続実施したりすることで充実と習慣化を図ってきた。 ・学校教育目標の達成のため、地域、家庭と連携を図りながら、具体的取組を行ってきた。特に、地域人材を活用した体験活動を多く設定することで、学ぶ楽しさや面白さを味わい、理解を確かなものとし、その学びを発信する児童が増えた。今後も児童の課題意識に応じた体験学習や郷土の課題解決のための取組を行い、地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。 ・協議の分散設定など実施したが、時間外勤務時間の縮減はなかなか実現しなかった。職員の働き方改革についての意識は高まってきているので、組織力を生かした改善策を探っていく。心身共に健康に働くことができる職場づくりに努めていく。</p>
----------------	--